

(令和2年4月01日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >
(GPIF の基本ポートフォリオ)

GPIF (年金積立金管理運用独立行政法人) は、2020年4月から基本ポートフォリオを変更しました。各資産の組み入れ比率は2014年10月以来の変更となります。変更点の主なものは、①.資産構成で国内債券の比率を低くして海外債券の割合を高めたこと、②. 従来は、資産構成毎に乖離許容幅を決めていましたが、株式と債券共に国内と海外合算して乖離許容幅を決めたこと、③. 各資産共に乖離許容幅を変更したことの3点となります。(なお、GPIFのホームページでは、「基本ポートフォリオの変更について (詳細) (PDF:863kb)」に、変更の内容が詳細に記載されています。

(GPIFの基本ポートフォリオ)

		国内株式	海外株式	国内債券	海外債券
変更前	資産構成割合	25%	25%	35%	15%
	乖離許容幅(各資産)	± 9%	± 8%	±10%	± 4%
変更後 2020/4/1~	資産構成割合	25%	25%	25%	25%
	乖離許容幅(各資産)	± 8%	± 7%	± 7%	± 6%
	(株式・債券)	株式 ±11%		債券 ±11%	

出所：GPIFホームページ (基本ポートフォリオの変更について) から作成

資産運用の世界ではアセット・アロケーションと呼ばれますが、運用におけるパフォーマンスを決める最も重要な部分に位置付けされています。個人では、保有する資産も限定されていること、また各人各様の制約条件が多いため理論通りには行きませんが、保有資産が市況・環境変化でどの程度の影響を受ける可能性があるかは、押さえておきたいところです。株式に投資できる資金の中で、保有株式 (リスク資産) と現金 (無リスク資産) との比率をマーケットの状況をトレースしてコントロールするのも、一種のアセット・アロケーションになります。